

武漢地目水官立善後連絡部關係

0732



日海連第三五ノ七四

中華民國三十四年十二月二十一日

漢口地王日本海軍連絡部

武漢地王日本官兵善後連絡部 御中

瑞興蛋廠構内ヨリ撤出セル諸物件 閣下ニ付 回答

貴部御來照(中華民國三十四年十二月十六日附)首題ノ件ニ関シ

再調査ノ結果別紙撤出物件明細表ノ通り判明セリ

先般回答セル物件ハ當方ニテ撤出ノ記録アルモノ、全般ニシテ

今次回答ノ物件ニ関シテハ記録無之爲當時ノ關係者ノ記憶ニヨル

調査ナル爲撤出年月日等ハ確實性ナキヲ輸送並ニ現地ニテ使用

セルハ事實ニシテ遺憾乍ラ返還不能ノ實情ニ付可然御取計

相成度

尚日本高等女學校及偽市政府糧食管理局並ニ東亞國藥研究

0733

所ニテ使用セルハ先般回答通住宅・附屬調度品並ニ倉庫
施設ノミニシテ器材化學品等ハ日本海軍ヨリ給與又ハ
貸與セル事實無之候條申添候

(別紙添)

(終)

0734

別紙

(備 考)

瑞興蛋廠橋内三ノ撤去物件 (20.12.20現在調)			
品名	数量	撤去年月日	撤去先
アソニニア	3409 1/2 KOS	昭和17年中頃	當地海軍部隊へ使用消耗
N.P (OLOVO 302 KOS 7合)	702 "	"	"
グリセリン	3650.29 "	"	"
Benzate of soda	51 "	"	"
グリコール	95 LBS (ポンド)	"	"
乳 酸	0.453 KOS	"	"
滑 油	150 "	"	"
Kalenin	650 LBS (ポンド)	"	"
パラフィン	17.84 piculs	"	"
青 紙	4 巻	"	"
罐 (缶)	112 個	"	上海方面海軍部隊へ輸送

0735

製 冊

(附 録)

ブリ×皿(錫)	63 箱半	昭和17年中頃	上海方面海軍部隊へ輸送
厚紙	17 包	"	"
アルミ皿	56615 個	"	"
アルミ鉢	578 個	"	"
アルミ桶(バケツ)	197 個	"	"
アルミ桶(バケツ)	1箱(300個入)	"	"
真鍮金銀(新品)	不詳	"	"
レール及鉄管	若干	昭和20年初*	當地海軍部隊へ防空壕等へ (鉄筋コンクリート目)に使用、取外不能
(終)			

0736



揚子江面特別根據地第三五號ノ二

昭和二十年十月十五日

漢口地區日本海軍連絡部

武漢地區日本官兵善後連絡部御中

江漢稅關所有物件回答

按字第一三三號ヨル首題ノ件左ノ通ニ付可然御取計相成度

記

一、接收スルキ江漢稅關ノ車輛船舶及江務事務處儀等ノ明細表ニヨル物件

(一) 測量器具一丸、八日本海軍漢口測量隊廳倉外(第四區一德街一三號)ニ格納保管中ノ處昭和二十年一月三十日空爆ニヨリ廳倉建物ト共ニ全部焼失セリ。

(二) 右以外ノ物件ハ其ノ後歲月ヲ經タル爲該當品ノ判別困難ニシテ

海軍

(長崎)

0737

且日本海軍ノ保有セシ物件ハ中國海軍ニ依リ己ニ接收者ニ付
當隊ヨリノ直接返還ハ不可能ノ状態ナリ、

接收スベキ江漢税關ノ日本ニ占有セラレアル家具等ノ明細書等ノ
物件

(一) 項ニ日本海軍砲台司令部トアルハ日本陸軍砲台司令部ノ
誤ト認メラル

(二) 及 (三) ニヨル物件ハ数次ノ空爆ニヨリ當該家屋ト共ニ焼失シ
又一部供用場所ヲ變更セルモノ等アルモ同様ニ供用場所ニ
於テ焼失セルモノ尠ナカラズ現状ニ於テハソノ該當品ノ判別不
可能ナルノミナラス日本海軍ニテ保有セシ物品中残存セルモノハ
己ニ中國海軍ニ於テ接收者(一部中央銀行及船舶局)ニ付
當隊ヨリノ直接返還ハ不可能ノ状態ナリ

(終)

控

日海連第五號一七

中華民國三十五年一月十五日

漢口地区日本海軍連絡部

武漢地区日本官兵善後連絡部御中

太古洋行所有ダイゼル機關竈スル件回答

必字第五〇號ニ關スル首題ノ件ハ中華民國三十四年四月十一日

太古洋行中央棧ヨリ搬出ノ日本陸軍第三十四軍野戰貨物

廠長ニ貸與シテ日東製粉株式會社ニテ運營中ノ處該機ハ

中國糧食部武漢糧政特派員沈國瑾代ニ接收済ニシテ原位置

ハ返還ニ關シテハ沈國瑾代ヨリ太古洋行宛交渉ノ上處理ス

トノ由ニ有之候

(終)

海軍

一一五發送係

八編四掛

0739

寫

通報

中華民國三十四年十二月二十八日
於上智中學本部

必字第501號

一、頃據英商太古洋行函稱

二、本行前有之柴油機一架及其附件日軍佔領期間曾被移去使用現查該機及其附件尚存放於礪口裏河街三二六號屋內請即飭日人將該機件全部送還本行原處一
等情

三、特檢附日東製粉株式會社漢口地區日本海軍連絡部證明書二紙

四、除另復外即希

查照查明發還該行原為荷

右通報

武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長 中山真武閣下

中華民國第六戰區司令長官司令部副官處長 蔣 虎

志印

海軍

0740

寫

必字第五〇一號

通

報

中華民國三十四年十二月二十八日
於上智中學本部

一、先日吳商太古洋行ヨリノ書函ニ據レバ

ニ、本洋行ノ以前所共有セル擦油機一台及其ノ附屬品ハ日軍占領期間移動

使用セラレアリシニ現在該機及附屬品ハ礪口裏河街三ニ大號屋内ニ放置シ

アリ日人ヲシテ該機全部ヲ本洋行原位置ニ返還セシメラレ度ニ云々

三、特ニ日東製粉株式會社漢口地區日本海軍連絡部宛證明書ニ通ヲ檢附セリ

四、別ニ回答スルヲ以テ調査ノ上該洋行原位置ニ返還相成度

右通報ス

武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長 中山貞武閣下

中華民國第六戰區司令長官司令部副官處長 蔣虎志

海軍

(密附納)

0741

控

渡邊三千子、六九

民國三十三年一月十一日

渡邊三千子、六九

在渡邊日本軍官甚多渡邊三千子

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

御東照(五)四五年一月十日(大志洋行所屬)有關係之件(明)明令(一)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

大志洋行所屬(カシヅ)ノ關係之件(四)

(福馬)

海

軍

0742

賞書

Butterfield & Swire

電話 "SWIRE"

漢口 三月六日

漢口連絡將校

福永大尉へ

0743

拝啓 戦時中日軍当局ハ寄、所有此ポイント（一頁書番号14、
 戦線番号1766）ヲ下流地区ニ APC.ビルニ移管セリ、 御調査上、
 出来得ルニ 聖該ポイントト共ニ 鋳及鋳鎖ニ又 APC.ニ移サレテ
 否ヤヲ知ラセテ、 更ニ "Laestrygon" 号ニ 四馬
 頭ニ 漢口倉庫 Coy.ビルノ向ヒ、口沖 居留地ニ移サレタリ
 鋳及ビ鋳鎖ニ共ニ移サレタリ、 当該鋳及ビ鋳鎖カ船ノ現在
 位置ニ移サレタルヤ否ヤヲ確クシテ、 敬具、

C.N. Co. Ltd 主筆 坂部 Y. Harry

時 號 長
通 信 長
通 行 費 額

海軍歐米無線電報用紙

海軍部 第四 無線電報用紙

Station	Class	No.	Date	Time	Remarks
Original Office					
Words					
Delivery Station					
Priority					
Scarf					
Time					

Y. K.O.

0744

海軍部第五號一六七

中華民國二十五年二月十四日

海軍部呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

日海軍部第五號、六月六日、呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

所屬卡、呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

記

中華民國二十七年(即一九三八年)二月、呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

物品八、呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈

海

軍

0745

陸軍

海軍第三五號六三二關スル件報告

民國三十五年五月十八日

漢口憲兵隊長代

武漢地區日本官署善後事務部部長

前部員中野武雄氏宛の通函及び報告書

所屬下官左の如く調査關係書類を在記事項の記載

中野武雄氏宛の通函の添付書類の補充と共に海軍側回答の基

照會の関し調査セルモノは民國三十七年前後、漢口憲

兵隊員員身其後在在交際日也口下現隊員の報告

等調査結果を添付書類の如く報告すべし

上海終戦時日誌を添付書類の如く添付す

物品等調査結果を添付書類の如く添付す

任セリト、如キ記憶録ハ皆無ナリニ付申添フ

0746

控

日海連第三五號ノ六三

中華民國三十五年二月十六日

漢地日本海軍連絡部首席參謀

武漢地日本官兵善後連絡部參謀長殿

中一信託公司保管箱關スル件回答

漢字第一二號ヨリ第六戰司令部長官司令部參謀處長ヨリ

照会アリタル首題ノ件左記ノ通り可然御取計相成度

記

現日本海軍司令部幹部ハ皆中華民國三十五年以降着任

セルモノミニシテ當時ノ状況ヲ知ル者ナク詳細不明ナルモ一方

調査ノ結果漸ク判明セル事項次ノ如シ

中華民國三十七年頃海軍側ニ該公司ヲ接收管理セルハ

土地及建物ノミニシテ建物内ノ一部家具類(種別數量等不明)

海軍

ヲ除キ動産ハ全部日本軍漢口進入直後日本陸軍側ニ處理セル

趣アリ處理物品中ニ該保管箱包含シタルヤ否ヤ不明ナルモ

海軍側ニ該保管箱ヲ處理セル書類及記憶等一切ナシ

尚中一信託公司襄理ノ最大嫌疑者ト見做シタル日本海軍

病院長海軍大匠中佐占部進ガ中華民國三十二年

四月着任ノ際ハ既ニ現狀ノ通り處理セラレアリ今ヲ其ノ

知ル處ニアラス

(終)

司令官	參謀長	參謀	參謀	參謀	參謀
	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀
內務長	司令官附	參謀	參謀	參謀	參謀
主計長	參謀	參謀	參謀	參謀	參謀

統通報第二〇〇號

中華民國三十五年二月二十八日

陸軍

為答復中一信託公司之保管箱事

由武漢地區日本官兵善後連絡部參謀長 中山貞武

致

中華民國第六戰區司令長官司令部參謀處長康樸將軍閣下
 貴方二月十三日漢字第二二二號通報敬悉中一信託公司大廈
 裝有保管箱內之物品一案當經通知現用該房屋之漢
 口地區海軍連絡部飭令調查後茲准答覆稱「日本海軍
 連絡部現任之幹部均自民國三十三年以後就任者而無人
 知悉當日本軍進駐武漢時之實情詳細不明茲經各方
 調查之結果所明範圍如次即於民國三十七年十月海軍
 雖接收管理該公司不過上地房屋及房屋內之一部傢
 具類(種類數量均不明)並不悉此項辦理物件內包有
 該保管箱否又接收該保管箱等之記錄及記憶一切不

0748

存現任病院長之海軍軍醫中佐占部進係于民國三十
二年就任而非接收時之負責人也當該人就任時已無
保管箱之鑰匙並無存箱內物品等由前來
同時敬達諸部專意調查當時狀況亦與海軍相同而
即無自初續任者又無殘存可憑文件是以不明當時
實情而不詳該保管箱是否由日軍接收者或係既在
未由日軍接收以前破壞者並無調查方法不明其詳
細理合呈覆即請
察照上述實情 寔為公便
再者准日本軍海軍答復內稱「貴國海軍亦向日本軍
海軍當問本案件」等由煩請轉行貴國海軍知
照為荷

(納谷典・京東)

0749

陸軍

統通報第二〇〇號

中一信託公司、保管箱ニ關スル件

昭和三十一年二月二十八日

武漢地區界官兵善後連絡部參謀長 中山 貞武

中華民國第六戰區司令長官司令部參謀處長 康 樸 將軍閣下

二月十三日附漢字第二二一號ヲ以テ通報アリタル中一信託

公司屋内ニ存セン保管箱内、物品調査ニ關スル件ハ道ニ

右建物ヲ現在使用シタル漢口地區海軍連絡部ニ通知調

査センムタル所 現在日本海軍連絡部、幹部、民國三

十三年以降ニ着任センモノミニシテ日本軍武漢進駐當

時、事情ヲ知ル者ナク詳細不明ナルモ種々調査、結果

知り得タル所ハ、民國二十七年十二月海軍ガ該公司ヲ停

收管理セルハ土地建物又建物内、一部家具類(種類數

量等不明)ノミニシテ其等管理物件中ニ該保管箱

0750

ヲ合ニアリシヤ否ヤハ不明ニシテ又該保管箱ヲ接收セリ
 ト、記録又記憶等一切現存セス
 尚現麻院長タル海軍軍醫中佐占部進ハ民國三十二
 年着任センモノニシテ接收當時、責任者ニアラス同人
 、着任當時ハ既ニ現狀通り保管箱、錠前無ノ箱内
 、物品、皆無テリシト、報告ニ據セリ、
 同時ニ本連絡部ニ於テモ當時、狀況ニ付鋭意調査ヲ進
 メタルモ海軍同様ニ當時ヨリ在任センモノ無ク該公司ニ
 關スル書類モ存在セス當時、狀況不明ニシテ該保管箱
 ガ日本軍ニヨリ接收サレタルモノナリヤ或ハ日本接收前
 既ニ破壊サレタルモノナリヤモ判明セズ調査、方法無ク
 詳細不明ナルニ付諒承相成度、
 尚本件ニ關ンテハ貴國海軍ヨリ日本軍海軍人モ同様照
 會アリ日本軍海軍ヨリ回答セント、由タルニ付右、旨

(納谷農・京東)

0751

貴國海軍へ七通知相煩ニ度申ノ添テ、

陸
軍

御 察 小 京 皇

0752

(要訣)

中一接収、一件、開シ御指令、上日醫院責任者ニテ切實ニ詳報セシメ以テ事象、徹底且明瞭ヲサシメテ様御處理相煩度、貴部第一一號公文ヨリ接收中一家屋、敵海軍移交情況調査ヲ抜記送付調査、上以上、趣旨御了知相成度、調査ニモト原中一保管箱、ソノハ依然不明瞭ニシテ但現在當事者タル中一信託公司ハ武漢轉送時ハ保管箱ハ在庫ニヤラズ、日人ニ搬出セシメ武漢陥落ヨリ家屋ガ占用サレシ此ハ莫ヨリ判断シ盜出、責ハ日本側ニ歸スル事疑ヒナリ、但日軍、何部カ爲ルヤハ本件、焦莫ニシテ而テ日海軍醫院亦肆ニ避ケルコト能ハズ、其咎ヲ蓋ヒ其、移交時未ダ此ハ莫ヲ分別ス或ハ企圖シ別事實ヲ開陳スル、嫌ヒレバ即ケル、所爲ニアラザルヤ否ヤ是非、追索セシム、此事、既ニ御了知、上、貴部、協同ヲ得、追査ケル人民福利、獲得シ相互、責任ヲ表明スルコトヲ得、

海軍

甚。日海軍醫院責任者上野道中佐、マニラ中一家屋占居
所該庫、情況如何、何部可移文、経緯如何、切實、以
事案、徹表且明通、所在、詳報御處、切實。

了

八編一四納

海軍

0754